

都市再生整備計画 事後評価シート
滝川市にぎわい再生地区

平成25年3月

ほっかいどう たきかわし
北海道 滝川市

様式2-1 評価結果のまとめ

| 都道府県名 | 北海道 | | 市町村名 | 滝川市 | | 地区名 | 滝川市にぎわい再生地区 | | | 面積 | 110.5ha | | |
|---------------------------------------|------------------|---|--|---|--------|--|-------------|---|------------------------|----------|---|---|-------------|
| 交付期間 | 平成20年度～平成24年度 | | 事後評価実施時期 | 平成24年度 | | 交付対象事業費(百万円) | 717.8 | 国費率 | 0.449 | | | | |
| 1) 事業の実施状況 | 当初計画に位置づけ、実施した事業 | 基幹事業 | 公営住宅等整備(滝川市営住宅栄町団地) | | | | | | | | | | |
| | | 提案事業 | 地域創造支援事業(図書館移転事業)、事業活用調査(図書館活用向上調査事業・賑わい再生ロード調査事業) | | | | | | | | | | |
| | 当初計画から削除した事業 | 基幹事業 | 事業名 | | | 削除/追加の理由 | | | 削除/追加による目標、指標、数値目標への影響 | | | | |
| | | 提案事業 | 地域創造支援事業(市営住宅駐車場整備事業) | | | 本来、市営住宅駐車場は、公営住宅の付帯施設であることから、事業項目の適正化のため、基幹事業の公営住宅整備に変更 | | | 影響なし | | | | |
| | 新たに追加した事業 | 基幹事業 | 既存建造物活用事業(まちづくりセンター整備事業) | | | まちづくり推進のため積極的に事業を取り組む町内会をはじめ、NPO法人、市民活動団体、市民等が交流し賑わう地域活性化の拠点、かつ、市民の憩いの場として地域交流センターが必要なため | | | 影響なし | | | | |
| | | 提案事業 | - | | | | | | | | | | |
| 交付期間の変更 | 当初 | 平成20年度～平成24年度 | | 交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響 | | | | | | | | | |
| 変更 | - | | | | | | | | | | | | |
| 2) 都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況 | 指標 | | 単位 | 従前値 | | 目標値 | | 数値 | | 目標達成度 | 1年以内の達成見込み | 効果発現要因(総合所見) | フォローアップ予定時期 |
| | | | | 基準年度 | 目標年度 | モニタリング | 評価値 | | | | | | |
| | 指標1 | 居住人口 | 人 | 2,660 | H18年度 | 2,800 | H24年度 | | 2,802 | ○ | あり なし | 建設補助及び公営住宅建設が民間投資による共同住宅建設を促し、また、図書館移転や病院改築等が利便性を向上させ、中心部の人口減少に一定の歯止めがかかる。 | 平成25年4月 |
| | 指標2 | 歩行者通行量 | 人/日 | 7,008 | H19年度 | 10,000 | H24年度 | | 11,306 | ○ | あり なし | 公営住宅整備、民間集合住宅の建設による居住者の増加、さらに、市立病院、図書館、まちづくりセンターなどコミュニティ施設がオープンしたことにより、街なかへの回遊性が生まれている。 | - |
| 指標3 | 図書館利用者数 | 人/年 | 43,000 | H18年度 | 65,000 | H24年度 | | 103,600 | ○ | あり なし | 郊外から中心市街地への移転により、交通アクセスの利便性が向上し、また、積極的なソフト事業の展開等により、利用者数は大幅に増加。 | 平成25年4月 | |
| 3) その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況 | 指標 | | 単位 | 従前値 | | 目標値 | | 数値 | | 目標達成度※1 | 1年以内の達成見込み | 効果発現要因(総合所見) | フォローアップ予定時期 |
| | | | | 基準年度 | 目標年度 | モニタリング | 評価値 | | | | | | |
| | その他の数値指標1 | | | | | | | | | | | | |
| | その他の数値指標2 | | | | | | | | | | | | |
| その他の数値指標3 | | | | | | | | | | | | | |
| 4) 定性的な効果発現状況 | | | | | | | | | | | | | |
| 5) 実施過程の評価 | 実施内容 | | | 実施状況 | | | | 今後の対応方針等 | | | | | |
| | モニタリング | - | | 都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった | | | | - | | | | | |
| | 住民参加プロセス | 「紙袋ランタンフェスティバルinたきかわ」の開催 「たきかわイエロープロジェクト」の実施 | | 都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった | | | | ● 今後関係機関と連携しながらイベントを継続的に実施し、滝川市を代表するイベントにする。 | | | | | |
| | 持続的なまちづくり体制の構築 | 中心市街地活性化協議会を中心とする中心市街地の活性化活動を展開する。 | | 都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった | | | | ● 中心市街地の来訪者の利便性の向上と賑わい創出を図るため継続的に実施していく | | | | | |

様式2-2 地区の概要

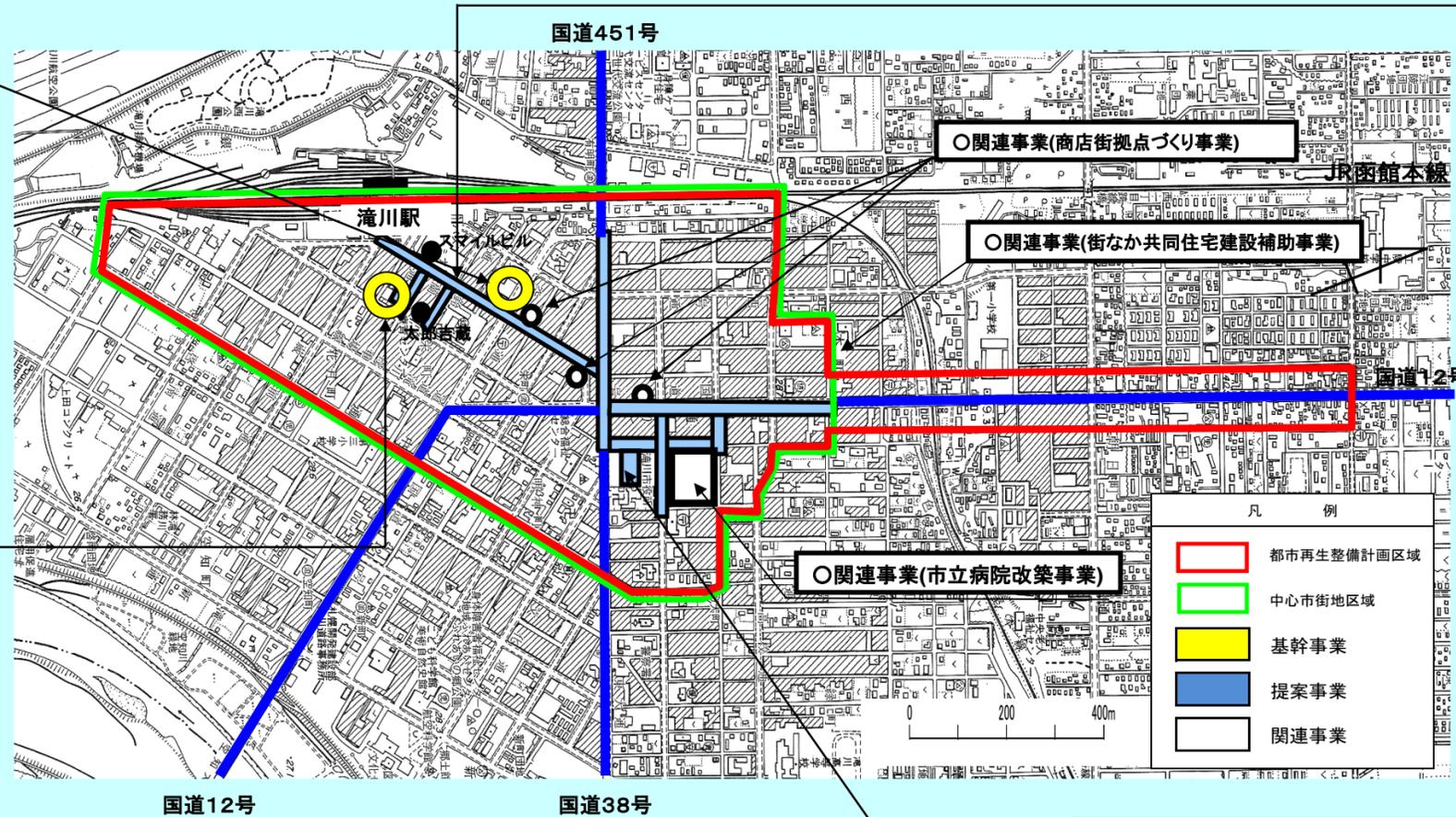
滝川市にぎわい再生地区(北海道滝川市) 都市再生整備計画事業の成果概要

| まちづくりの目標 | 目標を定量化する指標 | | 従前値 | | 目標値 | | 評価値 | |
|---|------------|---------|--------|-----|--------|-----|---------|-----|
| 大目標: 居住機能の充実、良好な歩行空間、魅力ある拠点づくり、多様な主体の連携による活発なまちづくり活動などにより、歩いて暮らせるコンパクトで活力と魅力ある中心市街地形成を目指す。 目標1: 居住機能などの機能集積を図り、少子・高齢化に対応したコンパクトなまちづくりを推進する。 目標2: 多くの市民が集まり賑わう場づくりにより、中心市街地の再生と活性化を図る。 目標3: 潤いのある良好な歩行空間を形成させ、歩いて楽しい回遊・滞留ルートづくりを推進する。 | 居住人口 | 単位: 人 | 2,660 | H18 | 2,800 | H24 | 2,802 | H24 |
| | 歩行者通行量 | 単位: 人/日 | 7,008 | H19 | 10,000 | H24 | 11,306 | H24 |
| | 図書館利用者数 | 単位: 人/年 | 43,000 | H18 | 65,000 | H24 | 103,600 | H24 |
| | | | | | | | | |

■基幹事業(まちづくりセンター整備事業)



■基幹事業(公営住宅等整備事業)



□提案事業(賑わい再生ロード調査事業)



□提案事業(図書館移転事業)



□提案事業(図書館活用向上調査事業)

まちの課題の変化

- ・民間による高齢者向け住宅の建設が街なか集積はじめたこと、かつ、高齢者向けバリアフリー仕様の市営住宅の建設が、民間投資による共同住宅建設を促進していることが起因し、居住機能が整備されつつある。
- ・図書館及び市立病院のオープン、まちづくりセンターをはじめとするコミュニティ6施設の整備等により多くの利用者が訪れ、中心市街地の活性化及び回遊性に寄与した。
- ・賑わい再生ロード事業では、活性化拠点やイベント時において休憩機能を設置することで、くつろぎ空間を演出し、さらに、市民参加によるイベントを実施することで、賑わいある歩行空間を形成できた。また継続的には、商店街・市民の有志で取り組む「街づくり体感トレーディングカードゲーム(マチろ〜)」により、街なかへの回遊が生まれた。

今後のまちづくりの方策(改善策を含む)

- ・建築住宅課が推進するサービス付き高齢者向け住宅の整備をベースに、街なか居住人口の維持又は増加に努める。
- ・市役所をはじめとする公共公益拠点、栄町3・3地区の賑わい拠点、さらに、駅周辺の広域交流拠点の3拠点を形成させ、賑わい再生ロードにより繋ぐことで、中心市街地の新たな「集客・交流」の場をつくる。
- ・利用者数が好調に推移する図書館と連携し、まちづくりセンターをはじめとするコミュニティ施設や商店街への誘導化を図り、一層の賑わい創出及び回遊性の向上に繋げる。
- ・賑わいを創出する各種イベントを今後も継続的に実施し、滝川市の代表となるイベントに発展させる。
- ・イベント効果を高める上で、効果的な告知方法を模索すると同時に、関係機関と連携し情報の共有化を図り、相互がよりよいタイミングにおいて情報を発信することが必要である。
- ・中心市街地の二核に対する再生機運が高まり、活性化策の展開が求められた段階には、適切な支援等を検討する必要がある。

都市再生整備計画 事後評価シート (添付書類)

(1) 成果の評価

- 添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無
- 添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(完成状況)
- 添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況
- ~~添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)により計測される効果発現の計測~~
- 添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

(2) 実施過程の評価

- 添付様式3-① モニタリングの実施状況
- 添付様式3-② 住民参加プロセスの実施状況
- 添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

(3) 効果発現要因の整理

- 添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制
- 添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理
- ~~添付様式4-③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理~~

(4) 今後のまちづくり方策の作成

- 添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制
- 添付様式5-② まちの課題の変化
- 添付様式5-③ 今後のまちづくり方策
- 添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見
- 添付様式5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画
- 添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方
- 添付様式6-参考記述 今後、交付金の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

(5) 事後評価原案の公表

- 添付様式7 事後評価原案の公表

(6) 評価委員会の審議

- 添付様式8 評価会議の審議

(7) 有識者からの意見聴取

- 添付様式9 有識者からの意見聴取

(1) 成果の評価

添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無

| | 変更 | | 変更前 | 変更後 | 変更理由 |
|---------------|----|----|-----|-----|------|
| | あり | なし | | | |
| A. まちづくりの目標 | | ● | | | |
| B. 目標を定量化する指標 | | ● | | | |
| C. 目標値 | | ● | | | |
| D. その他() | | ● | | | |

添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

| 基幹事業 | | | | | | | | | |
|-----------|---------------|------|---------------------------|--------|---------------------------|---|---|------------|-------|
| 事業 | 事業箇所名 | 当初計画 | | 最終変更計画 | | 当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む) | 都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響 | 事後評価時の完成状況 | |
| | | 事業費 | 事業内容 | 事業費 | 事業内容 | | | 完成 | 完成見込み |
| 既存建造物活用事業 | まちづくりセンター | - | - | 222 | A=4998.84㎡ S造5階建 | 平成23年に計画変更して追加(地域活性化の拠点・市民の憩いの場として必要なため事業化)。 | 影響なし | ● | |
| 公営住宅等整備 | 滝川市営住宅駅前団地さかえ | 328 | A=1564.69㎡ RC造5階建(20戸) | 337 | A=1919.05㎡ RC造5階建(20戸) | 提案事業による駐車場(18台)整備を基幹事業に変更し、さらに20台分に変更したため、事業費増加 | 影響なし | ● | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |

※1: 事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況

| 指標 | 単位 | データの計測手法と評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、対象、具体手法等) | (参考)※1 計画以前の値 (ア) | | 従前値 (イ) | | 目標値 (ウ) | | 数値(エ) | | 目標達成度※2 | | 1年以内の 達成見込みの有無 | | |
|-----|---------|---|---|----------|------------|----------|------------|----------|-------|--------|---------|---------|-------------------|--|--|
| | | | 基準 年度 | 基準 年度 | 基準 年度 | 基準 年度 | 目標 年度 | 目標 年度 | 数値(エ) | 達成度 | あり | なし | | | |
| 指標1 | 居住人口 | 人 | 基準時点の住民基本台帳の町別人口データから、中心市街地区域に設定した町丁目の居住人口を抽出し、さらに、集合住宅実態調査の値を合算する。 | 3,198 | H10 | 2,660 | H18 | 2,800 | H24 | モニタリング | | モニタリング | | | |
| | | | | | | | | | | 事後評価 | 確定見込み ● | 2,802 | 事後評価 | | |
| 指標2 | 歩行者通行量 | 人/日 | 中心市街地区域において、歩行者及び自転車の通行量を定点観測(5か所)により調査を実施 | 16,057 | H9 | 7,008 | H19 | 10,000 | H24 | モニタリング | | モニタリング | | | |
| | | | | | | | | | | 事後評価 | 確定見込み ● | 11,306 | 事後評価 | | |
| 指標3 | 図書館利用者数 | 人/年 | 図書館窓口での対応者を計測し、月末に集計されたデータを整理。H24年9月～H25年3月の利用者数は、H23年12月～H24年8月の実績値を基に推計 | 55,004 | H9 | 43,000 | H18 | 65,000 | H24 | モニタリング | | モニタリング | | | |
| | | | | | | | | | | 事後評価 | 確定見込み ● | 103,600 | 事後評価 | | |

| 指標 | 目標達成度○△×の理由 (達成見込み「あり」とした場合、その理由も含む) | その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題等) |
|-----|--|--|
| 指標1 | 居住人口は、平成22年度2,825人、平成23年度2,817人と目標値を2年連続達成し、極端に減少する傾向にはないことから、平成24年度も目標値を達成する可能性は高い。 | 平成21年以前まで、中心市街地区域における共同住宅等の建築件数は増加傾向にあるものの、人口が減少している状況から居住実態調査を実施したところ、住民登録をなさずに入居している状況が確認されたため、平成22年から当該調査値を含むこととした。 |
| 指標2 | 年1回、5月に実施される通行量調査は、平成23年度10,044人、平成24年度11,306人と目標値を2年連続達成している状況にあり、次年度まで変動することはないため、目標を達成したといえる。 | — |
| 指標3 | 利用者数の累計は、平成23年11月12日のオープンから約8か月(平成24年7月4日)で目標値65,000人を達成したことから、平成24年度中の利用者数が目標値を達成するのはほぼ確実である。実際、4月から8月までの利用者数は45,772人で、1月平均9,154人であることを考慮すると、3か月程度でクリアする可能性は高い。 | — |

添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

| |
|---|
| — |
|---|

(2) 実施過程の評価

・本様式は、都市再生整備計画への記載の有無に関わらず、実施した事実がある場合には必ず記載すること。

添付様式3-① モニタリングの実施状況

| 都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容 | 実施状況 | 実施頻度・実施時期・実施結果 | 今後の対応方針等 |
|---------------------------------|------------------------|----------------|----------|
| — | 予定どおり実施した | | |
| | 予定はなかったが実施した | | |
| | 予定したが実施できなかった (理由) | | |
| | 予定どおり実施した | | |
| | 予定はなかったが実施した | | |
| | 予定したが実施できなかった (理由) | | |

添付様式3-② 住民参加プロセスの実施状況

| 都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容 | 実施状況 | 実施頻度・実施時期・実施結果 | 今後の対応方針等 |
|---------------------------------|------------------------|---|---|
| 「紙袋ランタンフェスティバルinたきかわ」の実施 | 予定どおり実施した | 【実施頻度・実施時期】平成14年度から年1回、2月に実施 【実施結果】昨年度は10年の節目として、紙袋ランタン実行委員会が主催し、NPO7-トチャング滝川、たきかわ観光協会、國學院大學北海道短期大学部、滝川市商店街振興組合連合会、街なか賑わい再生実行委員会・滝川国際交流協会、そらぶちキッズキャンプ、NPO空知文化工房、滝川駐屯地曹友会、滝川商工会議所女性会、滝川商工会議所青年部、滝川市消費者協会、滝川市婦人会、滝川青年会議所、滝川建築士会、北海道工業大学旅行研究同好会などが合同で実施し、今では冬の一大イベントへと成長。 | 今後も関係機関と連携しながらイベントを継続的に実施し、滝川市を代表するイベントにする。 |
| | 予定はなかったが実施した ● | | |
| | 予定したが実施できなかった (理由) | | |
| 「たきかわイエロープロジェクト」の実施 | 予定どおり実施した | 【実施頻度・実施時期】平成24年5月27日、6月3日実施 【実施結果】たきかわイエロープロジェクト実行委員会が主催し、各商店街振興組合連合会、滝川商工会議所女性会、滝川商工会議所青年部、町内会、一般ボランティア、行政機関等が合同で、駅前から道の駅たきかわまでの沿道を菜の花で飾る活動を実施。 | 初めての試みから、改良の余地はあるものの、日本一の作付面積を誇る菜の花と連動し、賑わいの創出に寄与したことから、今後もイベントの継続化を図る。 |
| | 予定はなかったが実施した ● | | |
| | 予定したが実施できなかった (理由) | | |

添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

| 都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容 | 構築状況 | 実施頻度・実施時期・実施結果 | | 今後の対応方針等 |
|---------------------------------------|------------------------|--|--------------------|--|
| | | i. 体制構築に向けた取組内容 | ii. まちづくり組織名：組織の概要 | |
| 滝川市中心市街地活性化協議会を中心とする中心市街地の活性化活動を展開する。 | 予定どおり実施した ● | 中心市街地の活性化の総合的かつ一体的な推進に関し必要な事項について協議を行っている。 | 滝川市中心市街地活性化協議会 | 中心市街地の来訪者の利便性の向上と賑わい創出を図るため継続的に実施していく。 |
| | 予定はなかったが実施した | | | |
| | 予定したが実施できなかった (理由) | | | |
| | 予定どおり実施した | | | |
| | 予定はなかったが実施した | | | |
| | 予定したが実施できなかった (理由) | | | |

(3) 効果発現要因の整理

添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制

| 名称等 | 検討メンバー | 実施時期 | 担当部署 |
|---------------------------|---------------------------|------------|-----------------------|
| 庁内の横断的な組織(都市再生整備事業効果検討会議) | 商業観光課、建築住宅課、まちづくりセンター、図書館 | 平成24年9月28日 | 商業観光課(社会資本整備総合交付金担当課) |

添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理

| 指標の種別 | | 指標1 | 指標2 | 指標3 | | | |
|-------|--------------------------|-----------|---|-----------|---|-----------|---|
| 指標名 | | 居住人口 | 歩行者通行量 | 図書館利用者数 | | | |
| 種別 | 事業名・箇所名 | 指標改善への貢献度 | 総合所見 | 指標改善への貢献度 | 総合所見 | 指標改善への貢献度 | 総合所見 |
| 基幹事業 | [既存建造物活用事業]まちづくりセンター | ○ | 公営住宅整備が、民間投資による共同住宅の建設を促進し、また、郊外から移転した新図書館や改築された新病院などが利便性の向上に大きく寄与した結果、中心部の人口減少に一定の歯止めがかけられた。 | ◎ | 公営住宅整備や民間集合住宅の建設により、居住者が増加したこと、市立病院のリニューアルオープン、図書館の街なか移転、まちづくりセンターなどコミュニティ6施設のオープンにより利便性が向上したことが、街なかへの回遊性を生み、通行量の増加に繋がった。 | ○ | 郊外から中心市街地に位置する市役所への移転により、交通アクセスの利便性が大きく向上。また、利用者ニーズの的確な把握と新たなシステムの導入や積極的なソフト事業の展開により、利用者の満足度が大幅に向上し、利用者数は移転前の約2.5倍へと飛躍的に増加した。 |
| | [公営住宅等整備事業]滝川市営住宅駅前団地さかえ | ◎ | | ◎ | | ○ | |
| 提案事業 | [地域創造支援事業]図書館移転事業 | ○ | | ◎ | | ◎ | |
| | [事業活用調査]図書館活用向上調査事業 | ○ | | ○ | | ◎ | |
| | [事業活用調査]賑わい再生ロード調査事業 | ○ | | ◎ | | ○ | |
| 関連事業 | 市立病院改築事業(暮らし・にぎわい再生事業) | ○ | | ◎ | | ◎ | |
| | 商店街拠点づくり事業(戦略補助事業) | ○ | | ◎ | | ○ | |
| | 街なか共同住宅建設補助(地域住宅交付金) | △ | | △ | | △ | |

※指標改善への貢献度

- ◎ : 事業が効果を発揮し、指標の改善に直接的に貢献した。
- : 事業が効果を発揮し、指標の改善に間接的に貢献した。
- △ : 事業が効果を発揮することを期待したが、指標の改善に貢献しなかった。
- : 事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

| | | | |
|-------|---|--------------------------------------|---|
| 今後の活用 | 居住者が長く定住するとともに、さらなる居住者の増加に繋げるために、商店街の魅力向上が不可欠である。 | 各施設の利用に留まらず、商店街への回遊性を高めることで、相乗効果を図る。 | 現状の利用者数は一過性ではなく持続している状況から、その利用者を各施設や商店街に誘導することで、相乗効果を高める。 |
|-------|---|--------------------------------------|---|

(4) 今後のまちづくり方策の作成

添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制

| 名称等 | 検討メンバー | 実施時期 | 担当部署 |
|---------------------------|---------------------------|------------|-----------------------|
| 庁内の横断的な組織(都市再生整備事業効果検討会議) | 商業観光課、建築住宅課、まちづくりセンター、図書館 | 平成24年9月28日 | 商業観光課(社会資本整備総合交付金担当課) |

添付様式5-② まちの課題の変化

| 事業前の課題 都市再生整備計画に記載 したまちの課題 | 達成されたこと(課題の改善状況) | 残された未解決の課題 | 事業によって発生した 新たな課題 |
|---|--|--|---|
| 居住機能などの機能集積を図り、少子高齢化に対応したコンパクトなまちづくりを推進する必要がある。 | 民間による高齢者向け住宅の建設が、街なかへの機能集積を図り、高齢者向けバリアフリー仕様の市営住宅の建設が、民間投資による共同住宅建設を促進するなど、居住機能が整備されつつある。 | なし | 都市再生整備計画により、まちの課題に対する改善が進み、目標値もクリアしている状況にあるが、数値ほどに実感が伴っていないのが現状。これは、中心市街地の核であり、長年の懸案事項である「駅前地区」及び「栄町3・3地区」の停滞による影響が大きいと思われることから、今後、この二核の整備の重要性を踏まえ、行政としても適切な支援等ができるよう準備・協力体制が必要である。 |
| 多くの市民が集まりにぎわう場づくりにより、中心市街地の再生と活性化を図る必要がある。 | 市役所・図書館、市立病院及び総合福祉センターなどの公共施設からなる公共公益拠点形成と、まちづくりセンターをはじめとするコミュニティ6施設の整備によって、多くの利用者が訪れ、中心市街地の活性化に寄与した。 | <ul style="list-style-type: none"> 各拠点との連携を強化し、相乗効果を発揮する必要がある。 各組織が役割を担い、責任ある行動が必要である。 | |
| 潤いのある良好な歩行空間を形成させ、歩いて楽しい回遊・滞留ルートづくりを推進する必要がある。 | 賑わい再生ロード事業により、季節感にあった色とりどりの花で来街者をもてなし、活性化拠点や中心市街地のイベント時に休憩施設を設置することにより、くつろぎ空間を演出し、さらに、市民参加による紙袋ランタンフェスティバルと連携し、5,000人以上の来街者を集客させるなど、賑わいある歩行空間を形成できた。また継続的には、商店街・市民の有志で取り組む「街づくり体感トレーディングカードゲーム(マチろ〜)」により、街なかへの回遊が生まれた。 | 街頭ヒアリングによると、イベントの存在を知らないと回答する割合も高かったことから、情報発信の強化が必要である。 | |

これを受けて、成果の持続にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③A欄に記入します。

添付様式5-③ 今後のまちづくり方策

| | 効果の持続を図る事項 | 効果を持続させるための基本的な考え方 | 想定される事業 |
|---------------------------|------------------|---|--------------------|
| A欄 効果を持続させるため に行う方策 | サービス付き高齢者向け住宅の整備 | 建築住宅課が推進するサービス付き高齢者向け住宅の整備をベースに、街なか居住人口の維持又は増加に努める。 | ・サービス付き高齢者向け住宅整備事業 |
| | 1軸3拠点の形成 | 市役所をはじめとする公共公益拠点、栄町3・3地区の賑わい拠点、さらに、駅周辺の広域交流拠点の3拠点を形成させ、賑わい再生ロードにより繋ぐことで、中心市街地の新たな「集客・交流」の場をつくる。 | ・賑わい拠点の形成支援 |
| | 各種イベントの継続実施 | 賑わいを創出する各種イベントを今後も継続的に実施し、滝川市の代表となるイベントに発展させる。 | ・イベント活動支援 |

| | 改善する事項 | 改善策の基本的な考え方 | 想定される事業 |
|--|-------------------------|--|--|
| B欄 改善策 ・未達成の目標を達成するための改善策 ・未解決の課題を解消するための改善策 ・新たに発生した課題に対する改善策 | まちづくりセンター、図書館、商店街との連携強化 | 利用者数が好調に推移する図書館と連携し、まちづくりセンターをはじめとするコミュニティ施設や商店街への誘導化を図り、一層の賑わい創出及び回遊性の向上に繋げる。 | ・連携イベントの開催 ・連携PR |
| | 情報発信の強化 | イベントの効果を高める上で、より効果的な告知方法を考え、関係機関と連携を密にしながら情報を共有し、相互がよりよい時期に情報を発信していくことが必要である。 | ・効果的な告知方法の模索 ・関係機関との情報共有化 ・相互連携による情報発信 |
| | 「駅前地区」及び「栄町3・3地区」の再生 | 中心市街地の二核に対する再生機運が高まり、活性化策の展開が求められた段階には、適切な支援等を検討する必要がある。 | ・賑わい拠点の形成支援 |

フォローアップ又は次期計画等
において実施する改善策
を記入します。

なるべく具体的に記入して下さい。

■様式5-③の記入にあたっては、下記の事項を再確認して、これらの検討結果を踏まえて記載して下さい。(チェック欄)

| | |
|---|---|
| ● | 交付金を活用するきっかけとなったまちづくりの課題(都市再生整備計画)を再確認した。 |
| ● | 事業の実施過程の評価(添付様式3)を再確認した。 |
| ● | 数値目標を達成した指標にかかる効果の持続・活用(添付様式4-②)を再確認した。 |
| - | 数値目標を達成できなかった指標にかかる改善の方針(添付様式4-③)を再確認した。 |
| ● | 残された課題や新たな課題(添付様式5-②)を再確認した。 |

添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見

なし

添付様式5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画

・フォローアップの要否に関わらず、添付様式2-①、2-②に記載した全ての指標について記入して下さい。
 ・従前値、目標値、評価値、達成度、1年以内の達成見込みは添付様式2-①、2-②から転記して下さい。

・評価値が「見込み」の全ての指標、目標達成度が△又は×の指標、1年以内の達成見込み「あり」の指標について、確定値を求めるためのフォローアップ計画を記入して下さい。

| 指標 | | 単位 | 従前値 | | 目標値 | | 評価値 | | 目標達成度 | 1年以内の達成見込みの有無 | フォローアップ計画 | | | |
|-----------|---------|-----|--------|-----|--------|-----|-------------|---------|-------|---------------|-----------|---------|------------------------------------|---|
| | | | 年度 | 年度 | 年度 | 年度 | | | | | 予定時期 | 計測方法 | その他特記事項 | |
| 指標1 | 居住人口 | 人 | 2,660 | H18 | 2,800 | H24 | 確定 見込み ● | 2,802 | ○ | あり なし | → | 平成25年4月 | 平成25年3月末日の住民基本台帳人口に集合住宅実態調査値を合算する。 | — |
| 指標2 | 歩行者通行量 | 人/日 | 7,008 | H19 | 10,000 | H24 | 確定 見込み ● | 11,306 | ○ | あり なし | → | — | — | — |
| 指標3 | 図書館利用者数 | 人/年 | 43,000 | H18 | 65,000 | H24 | 確定 見込み ● | 103,600 | ○ | あり なし | → | 平成25年4月 | 平成24年度(平成24年4月～平成25年3月)の利用者数を集計する。 | — |
| 指標4 | | | | | | | 確定 見込み | | | あり なし | → | | | |
| 指標5 | | | | | | | 確定 見込み | | | あり なし | → | | | |
| その他の数値指標1 | | | | | | | 確定 見込み | | | | → | | | |
| その他の数値指標2 | | | | | | | 確定 見込み | | | | → | | | |
| その他の数値指標3 | | | | | | | 確定 見込み | | | | → | | | |

添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方

・下表の点について、特筆すべき事項を記入します。

| 項目 | | 要因分析 | 次期計画や他地区への活かし方 |
|--------------------------|------------|---|--|
| 数値目標 ・成果の達成 | うまくいった点 | 図書館の利用者数は想定以上に増加したが、これは、郊外から中心市街地への移転により、利便性が向上したこと、かつ、積極的なソフト事業の展開により、リピーターが増加したことが要因にあると推測される。 | コンパクトタウンを目指す上で、同パターンによる施設移転や事業展開は参考となる。 |
| | うまくいかなかった点 | — | |
| 数値目標と 目標・事業との 整合性等 | うまくいった点 | — | — |
| | うまくいかなかった点 | — | |
| 住民参加 ・情報公開 | うまくいった点 | — | イベントの効果を高める上で、より効果的な告知方法を考え、関係機関と連携を密にしながら情報を共有し、相互がよりよい時期に情報を発信していくことが必要である。 |
| | うまくいかなかった点 | 賑わい再生ロード調査事業において、イベントを実施したが、情報が人々に行き渡らず、イベントの存在を知らない方が見受けられたことから、情報発信が十分ではなかったと考察される。 | |
| PDCAによる事業 ・評価の進め方 | うまくいった点 | 滝川市中心市街地活性化基本計画では、目標に対するフォローアップ調査を毎年実施しているが、都市再生整備計画の目標とも重複していることから、当該調査結果を基に、適切な計画変更への判断に至ることができた。 | 当初計画の途中効果を判断する上で、事業の進捗状況や成果の発現状況を把握することは、計画変更等の判断基準として有効であることから、可能ならばモニタリングの実施が望ましいが、本市のように、何らかのフォローアップ調査でも十分効果的である。 |
| | うまくいかなかった点 | — | |
| その他 | うまくいった点 | 評価委員会については、事後評価等が適切に遂行されたか確認いただき意見を求めること、及び、今後のまちづくり方策等について意見を求めることを目的とするが、滝川市においては、さらに第2ステージを設け、今後のまちづくりの課題と方向性について審議いただき、次期まちづくりに反映を想定している。 | 評価委員会においては、総合的かつ専門的な知見を有する委員の協力を仰ぐが、事後評価に係る審議に留まらず、次期まちづくり方針など、関連目的のための審議に協力いただけると、次期計画等への熟度が高まり効果的である。 |
| | うまくいかなかった点 | — | |

添付様式6－参考記述 今後、都市再生整備計画事業の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

| |
|---|
| — |
|---|

(5) 事後評価原案の公表

添付様式7 事後評価原案の公表

| 公表方法 | 具体的方法 | 公表期間・公表日 | 意見受付期間 | 意見の受付方法 | 担当部署 |
|--------------|--------------------------------|-------------------------|-------------------|--------------------------|-----------------------|
| インターネット | 市のホームページに掲載 | 平成24年11月1日～11月21日 | 平成24年11月1日～11月21日 | 商業観光課への電話、FAX、郵送又はEメールなど | 商業観光課(社会資本整備総合交付金主管課) |
| 広報掲載・回覧・個別配布 | 広報紙に市ホームページ及び担当窓口で原案を公表している旨掲載 | 平成24年10月25日発行 広報11月号 | 平成24年11月1日～11月21日 | | |
| 説明会・ワークショップ | — | — | — | | |
| その他 | 商業観光課窓口での閲覧を実施 | 平成24年11月1日～11月21日 | 平成24年11月1日～11月21日 | | |

| | |
|-------|----|
| 住民の意見 | なし |
|-------|----|

(6) 評価会議の審議

添付様式8 評価会議の審議

| | 委員構成 | 実施時期 | 担当部署 | 委員会の設置根拠 | 委員会の母体組織 |
|-----------|--|--|-----------------------|-----------------------|----------|
| 学識経験のある委員 | 北海道大学大学院工学研究院 准教授 小篠 隆生 | | | | |
| その他の委員 | 滝川商工会議所 専務理事 鈴木 清 滝川市商店街振興組合連合会 専務理事 続木 潤也 滝川市都市計画審議会 副会長 田端 千裕 (一社)たきかわ未来会議 委員 井田 規之 | 第1回 平成24年11月9日 第2回 平成24年11月27日 第3回 平成24年12月17日 | 商業観光課(社会資本整備総合交付金主管課) | 滝川市都市再生整備計画事後評価会議設置要綱 | 独自に設置 |

| 審議事項※1 | 委員会の意見 |
|---------------------------|--|
| 事後評価手続き等にかかる審議 | |
| 方法書 | ・方法書に従って、事後評価が適正に実施されたことが確認された。 |
| 成果の評価 | ・図書館及びまちづくりセンターは、商店街やNPO法人など関係組織と連携し、積極的にソフト事業を展開しており、評価できるとの意見があった。 |
| 実施過程の評価 | ・住民参加プロセスに係るイベントについては、都市再生整備計画に記載されておらず、本計画との関連性を確認したいとの意見があったが、賑わい再生ロード事業との連動性及びプラス効果としての関連性から、記載することへの妥当性が確認された。 |
| 効果発現要因の整理 | ・総体的に妥当であることが確認されたが、改善貢献度を判断する上で、より根拠となるデータ収集及び整理が必要との意見があった。 |
| 事後評価原案の公表の妥当性 | ・事後評価原案の公表は、妥当であると確認された。 |
| その他 | ・特になし |
| 事後評価の手続きは妥当に進められたか、委員会の確認 | ・事後評価の手続きは、妥当であると認められた。 |
| 今後のまちづくりについて審議 | |
| 今後のまちづくり方策の作成 | ・総体的に妥当であることが確認されたが、検討体制については、関係各課による組織に留まらず、庁内の他部署も交え、組織全体として体制を構築すると良いとの意見があった。 |
| フォローアップ | ・特になし |
| その他 | ・賑わい再生ロード調査事業の説明において、情報発信が不足していたとの考察結果もあったので、その旨を記載し、今後のまちづくりに活かすべきとの意見があった。 |
| 今後のまちづくり方策は妥当か、委員会の確認 | ・今後のまちづくり方策は、妥当であると認められた。 |
| その他 | ・滝川市においては、事後評価に係る審議だけではなく、次期まちづくりへの課題・方向性等について、より踏み込んだ審議を展開していることから、その事実を記載すべきとの意見があった。 |

(7) 有識者からの意見聴取

添付様式9 有識者からの意見聴取

・この様式は、効果発現要因の整理(添付様式5)、今後のまちづくり方策の検討(添付様式6)、評価委員会の審議(添付様式9)以外の機会に、市町村が任意に有識者の意見聴取を行った場合に記入して下さい。

| 意見聴取した有識者名・所属等 | 実施時期 | 担当部署 |
|----------------|------|------|
| — | — | — |
| | | |

| | |
|--------|---|
| 有識者の意見 | — |
|--------|---|